

# 火山砂利でクレー舗装

## 盛岡の公園路に敷設

# NIPPO

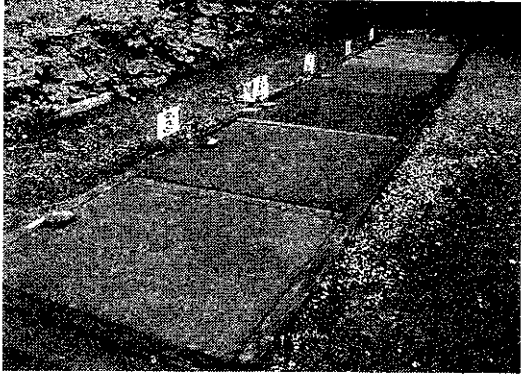
NIPPOは、岩手県八幡平市内で産出する火山砂利を利用したクレー舗装技術を開発した。採取した火山砂利、天然砂、石灰系の添加剤を混合してつくった材料を用いて、赤茶色のれんがの風合いを持った舗装として仕上げる。盛岡市の「志波城古代公園」（上鹿妻五兵衛新田）で、07、08年度に園路計3100平方メートルに取り入れた。同社東北支店では、多孔質で保水機能を持った火山砂利の特性を生かし、歩経路向けの舗装技術として幅広く売り込んでいくための検討にも乗り出した。

### 地場材料活用技術を売り込み

志波城古代公園での施工では、均質な路面とするために、火山砂利から粒径20ミリ以下のものを抽出。現場近くに配置した混合機を使って、ほかの材料と混ぜ合わせて材料を製造した。これをアスファルトフィニッシャーを使って、路盤の上に厚さ約5センチならした後、八幡平市で最適な火山砂利が産出することを利用して、景観性の高いクレー舗装を実現する。



火山砂利を取り入れた志波城古代公園の園路



異なる配合で試験施工（盛岡合材工場の構内）

園路を仕上げることに成功した。今回取り入れた舗装技術は、同社の土系舗装シリーズ「パーフェクトクレー」の一つとしてライナップ。「パーフェクトクレーVIG（Voice ano Grave）」を吸収する高い保水力や

火山砂利」と名付けた。同公園での施工をきっかけに東北支店では、各種ニーズに対応する技術とするために、セメント系、アスファルト、乳剤系などタイプや配合設計の異なる複数の材料をつくり、盛岡合材工場の構内で試験施工。

今後室内試験で耐久性の検証などを経て、地場材料を活用した景観性の高い技術として自治体を中心に売り込んでいく考えだ。

浅田隆東北支店技術センター部長は「素材そのものが持つ色合いを最大限に活用しながら、水分

路面温度を低減する効果も青森県八戸市の黄色い石炭質安山岩を利用したカラー舗装のほか、木材やホタテ貝、廃陶器などを本来廃棄処分する素材を有効利用したりサイクル舗装などの実績がある。

日刊建設工業新聞  
平成21年7月14日掲載